

善し悪し

近頃、地方議会の議員さんの資質が取りざたされています。セクハラ発言やら、アイヌの人々に対する発言やら、いささか乱暴な言いようについて聞こえますね。人の考える正義や主張は立場によつて様々なものと考えさせられます。以前「はだしのゲン」は、広島の原子爆弾で被爆した中沢啓治さんが、自身の体験を描かれた漫画です。戦争の悲惨さや酷たらしさを後世に伝えられる内容になっています。しかし、その描写や歴史認識が子供たちに悪影響を与えるとの抗議などで閲覧禁止になりました。この時に世間の耳目を集めることになり、賛成、反対の議論がありました。今の「集団的自衛権」の問題と似ているようなところもありますね。

ここでこの問題の善し悪しを言うつもりはありません。それによっては正義も大義も、正反対に表れるものだということです。政治の世界も互いに他の意見を尊重すると言つてしまふが。歎異抄に次の言葉があります。「善惡の一一つ總じてもつて存知せざるなり。

そのゆえは、如來の御こころによしとおぼしめすほどにしりとおしたらばこそ、よきをしりたるにてもあらめど、如來のあしとおぼしめすほどにしりとおしたらばこそ、あしさをしりたるにてもあらめど、煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもつて、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ、念仏のみぞまことにおわします」（私は善惡は、どちらもわかりません。ただ、念仏だけは変わることのない真実なのです）と、親鸞聖人のお言葉として、人間の考えること、なすことがどれだけ、不完全なものかを述べられています。私達は自分が男の都合の良いように正しさを押しつけているのかもしれません。

婦喧嘩の後に次のような歌をつくっています。

おらのかかあの寝姿見れば　じごくの鬼にそのまんま
うちには鬼が　二匹おる　女鬼に　男鬼

あさましや　あさましや　なもあみだぶつ　なもあみだぶつ
最初は喧嘩をした奥さんを鬼のように思つたのでしよう。しかしよく念仏に照らされると、奥さんを鬼にしてしまつた自分が鬼であつたと気づかさせられたのです。自分が正義であつたと思つていたことから転換、これこそが念仏のはたらきであります。

人によつて見え方が変われば答えもかわることばが、違う言葉が解答として繰り出され人の数だけ正義もあるのかかもしれません。いい人や、正義や、大義、言い換えれ「私は正しい」ばかりがの人が蔓延しています。息苦しい現代社会はこんなところに原因があるようですが・・・